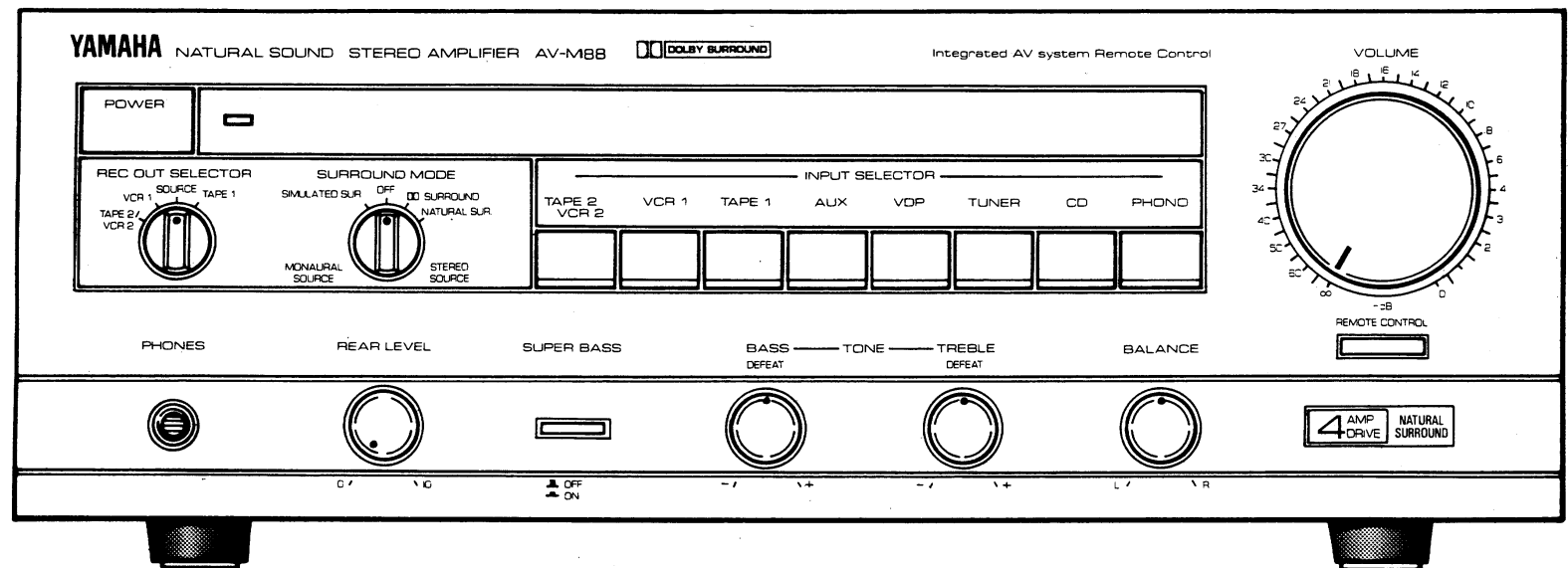


AV-M88

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

取扱説明書



ご使用の前に必ずお読みください。

特長

このたびは、ヤマハ・コンパクトコンポーネントシステムをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
AV-M88の優れた性能を充分に発揮させると共に、長年支障なくご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

特長	1
豊かなAVライフのために	2
スピーカーの配置について	3
付属品の確認	4
サラウンド効果について	
サラウンド方式について	5
ドルビーサラウンドについて	5
各部の名称とはたらき	
フロントパネル	6
リアパネル	8
リモコンユニット	11
接続のしかた	13
接続端子一覧表	18
再生のしかた	
オーディオソースの再生	19
ビデオソースの再生	20
録音のしかた	
テープデッキの録音	21
テープデッキのダビング	21
録画のしかた	
HiFiビデオデッキの録画	22
HiFiビデオデッキのダビング	22
サラウンドプロセッサについて	23
リモコンを使う前に	24
故障かなと思ったら	25
参考仕様	26
ヤマハホットラインサービスネットワーク	裏表紙

■豊富な入出力端子

お手持ちのビデオ、オーディオ機器のシステムアップに対応できるよう、オーディオ入力8系統、映像入力3系統、モニター出力1系統と、豊富な入出力端子を装備しています。

■ドルビーサラウンド・システム搭載

自然な広がり感が得られ、またコンサートホールの臨場感をリアルに再生するナチュラルサウンドや、ドルビーサラウンドによってエンコードされた映画ソフトを劇場なみの迫力で再現するドルビーサラウンドを搭載しました。また、モノラルソースも広がりのあるステレオ感いっぱいのサラウンドに変身します。

■パワーアンプ内蔵

フロント、プレゼンス(サブ)スピーカーそれぞれを駆動するハイパワーアンプを内蔵しています。

■トータルシステムリモコン

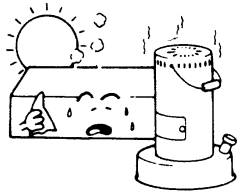
入力切換や音量もリモコンで操作可能です。また、システムリモコン対応の製品と組み合わせると、システムのほとんどの機能をリモコンで操作できます。

■フルダビングを可能にするREC OUT SELECTOR

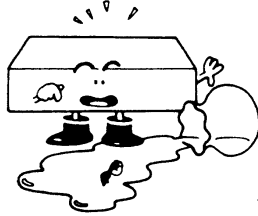
REC OUT SELECTORを装備しているため、録音・録画しながら別のプログラムソースをお楽しみいただくことができます。また、お好みの映像と音声をドッキングさせることも可能です。その上同時に2台のデッキに録音、録画ができます。

豊かなAVライフのために

高温をさけて！

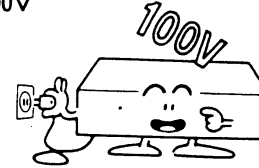


ほこり・水気をさけて！

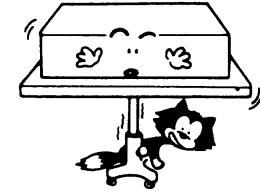


国内のみ使用可

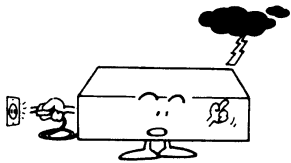
家庭用電源コンセント
AC100V



不安定な場所をさけて！

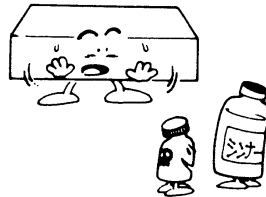


雷が近づいたら

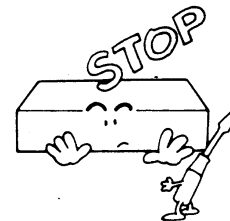


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

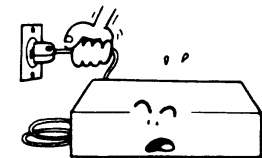
薬物厳禁



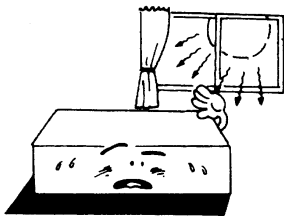
開けないで！



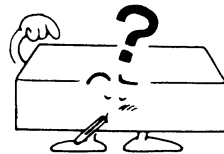
引っばらないで！



直射日光はさけて！



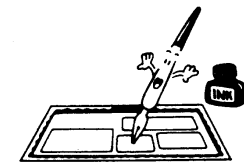
こわれた？



25ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



取扱説明書はかならず保管してください。

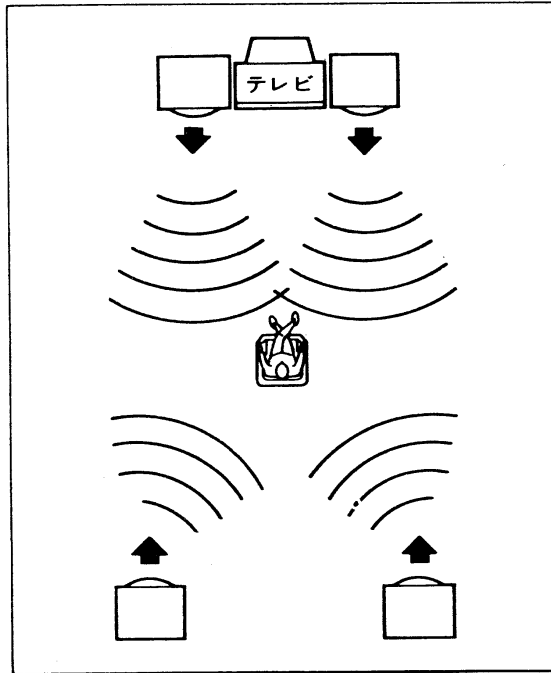


ファイルなど

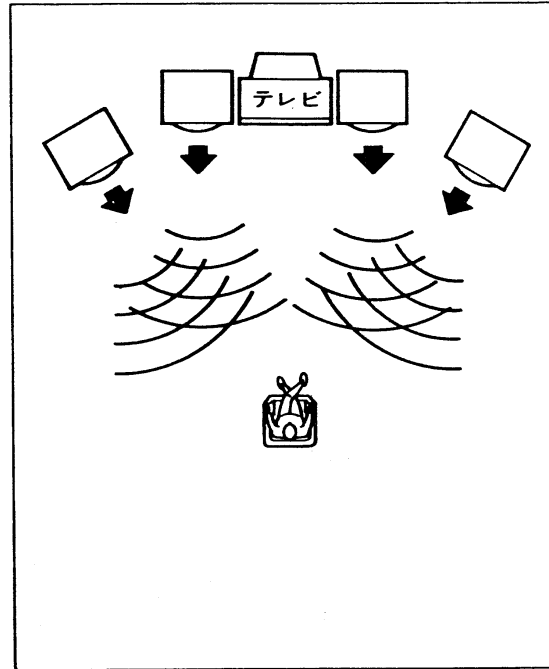
スピーカーの配置について

プレゼンス(サブ)スピーカーの配置は、部屋の大きさや残響特性などにより、いろいろなパターンが考えられます。

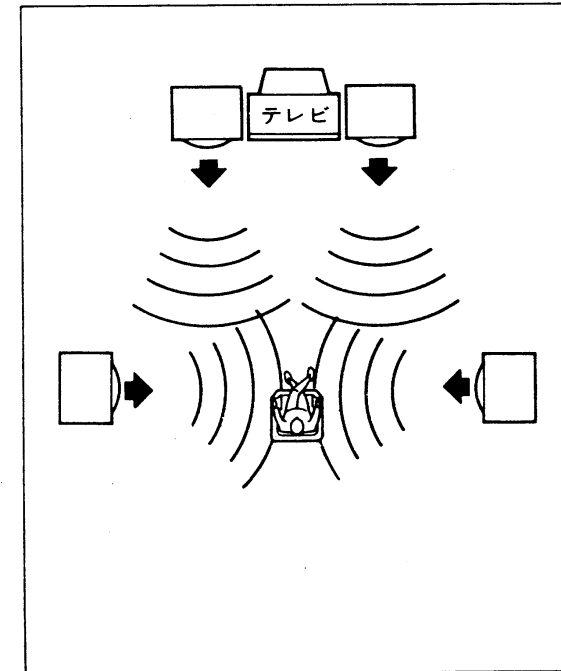
ここに示した配置例は、サラウンド空間をより効果的に楽しみいただくための代表的な例です。それ以外にもいろいろな配置があります。お好みに合わせてセットしてお楽しみください。



標準的な置き方



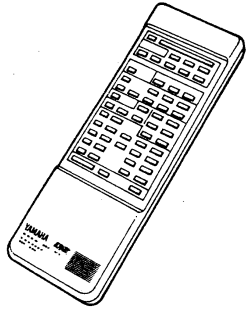
前方に4つのスピーカーを配置する場合
左右の壁が板やコンクリートなどの場合、
図とは逆に壁側に向けると良い結果が得られることがあります。



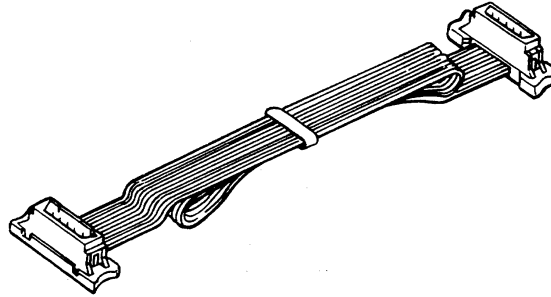
スピーカーを左右に配置する場合
プレゼンス(サブ)スピーカーは少し高い
所から下向に置くと良い結果が得られる
ことがあります。

付属品の確認

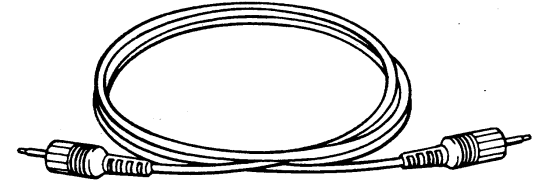
- ワイヤレスリモコン



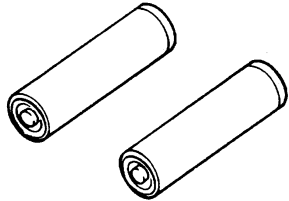
- リモコンケーブル(5ピン)(チューナー用)



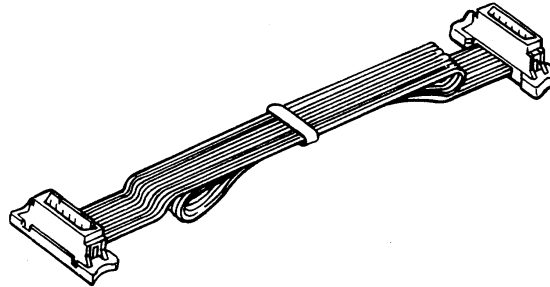
- ミニプラグ付リモコンケーブル(プレーヤー用)



- 乾電池 単3(SUM-3)×2
(ワイアレスリモコン用)



- リモコンケーブル(6ピン)(テープデッキ用)



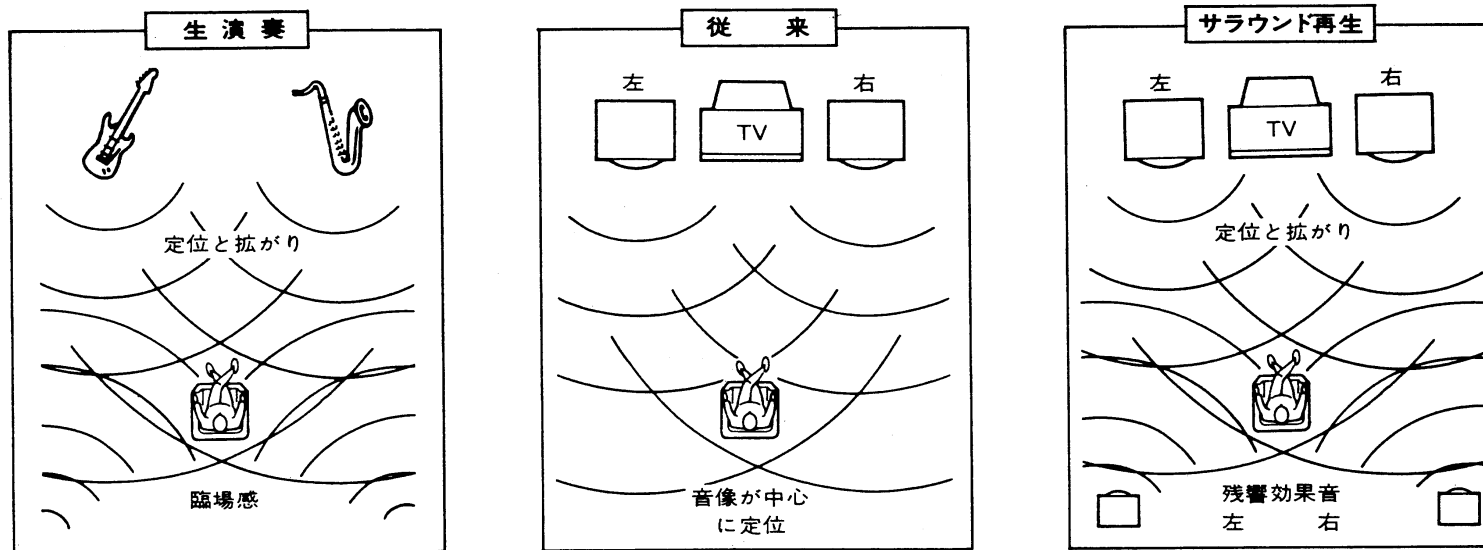
サラウンド効果について

■サラウンド方式について

普段、私達は周囲の音に囲まれて生活しています。音源から直接入る音、周囲の壁や床などに反射して入る音、さらには、人の声、自動車の音などに囲まれて生活しています。

また野球場などのスタジアムやコンサートホールでも、観客の拍手や歓声は、自分の周囲から聞こえてきます。

AV-M88は、この様に実際に聞こえる状態を可能な限り再現するために、スピーカーを前後左右（☞3ページ「スピーカーの配置について」）に配置して残響効果音を付加し、自然な臨場感を実現しました。さらに、AV-M88は、ソースに合わせた臨場感づくりも行なえるように、3つのサラウンドモードを設けています。



■ドルビーサラウンドについて

☐☐ DOLBY SURROUND™ のマークは、ドルビーステレオ映画で使用しているドルビー・サラウンド・システムです。

このシステムは、ドルビーシステムならではの迫力と音響空間を作り出すためのドルビー独自のシステムです。

これらのビデオソフトはテープデッキのノイズリダクション効果とは異なり、明瞭な定位感と迫力のある重低音を再生できるように、特殊回路を設けてエンコード録音されています。これを再生する為に、本機はドルビーサラウンドデコーダーを搭載して、映画館と同じような音響効果でお楽しみいただけます。

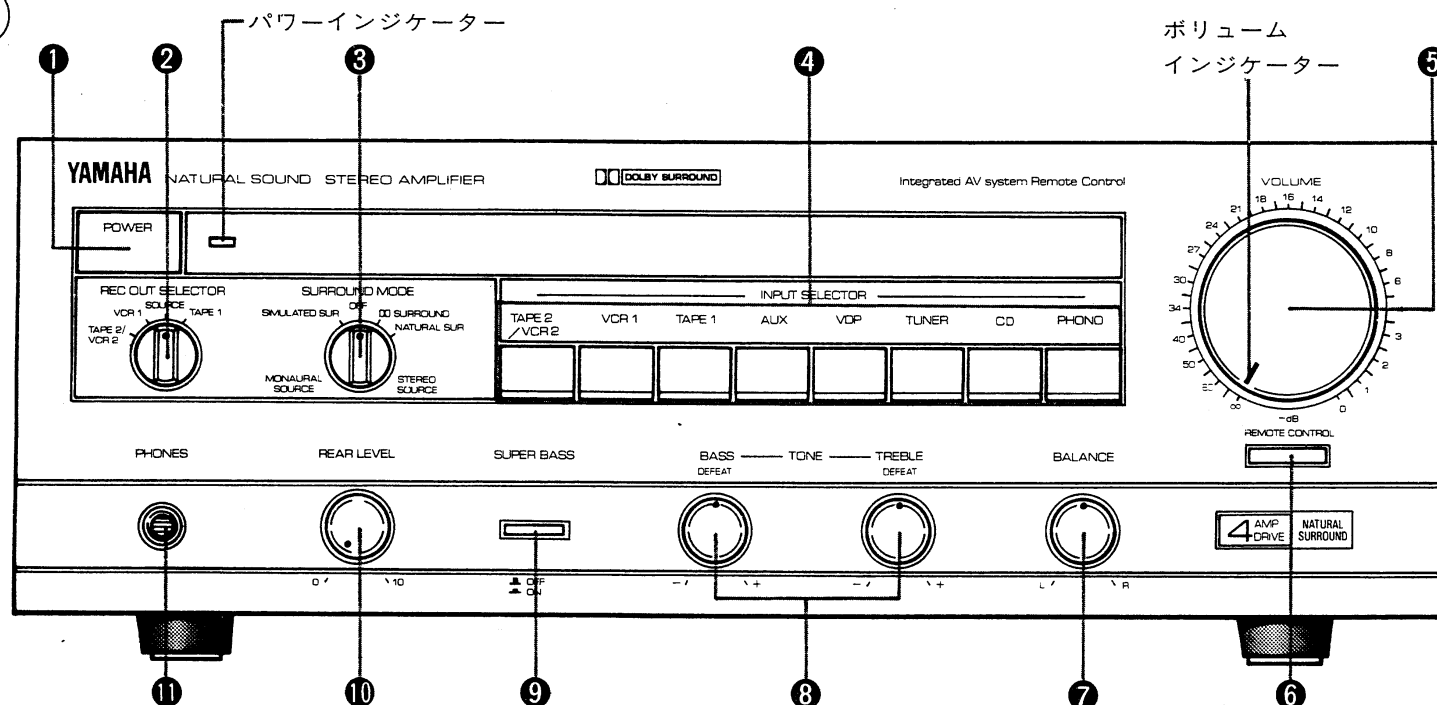
SURROUND MODEセクターを「☐☐ SURROUND」ポジションにセットしてロードショーで体験したあの感動と迫力をお楽しみください。

☐☐ DOLBY SURROUND™

※「ドルビー」及びダブルD記号は、ドルビー研究所の登録商標です。本機は、ドルビー研究所のライセンスに基づき製造された製品です。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



① POWER スイッチ

このスイッチを押すと電源が入り右のインジケータが赤く点灯します。電源を切るときはもう一度押してください。

- 電源を入れるときは、必ずVOLUMEつまみを最小の位置「-∞」に回してください。
- 電源を入れてから数秒間はスピーカー保護回路がはたらいっているため音が出ません。

② REC OUT SELECTOR

テープデッキに録音またはHiFiビデオデッキに録音（録画）するプログラムソースを選択するときに使用します。

テープ TAPE 1

本機裏面のTAPE 1 端子に接続したテープデッキからVCR 1 端子に接続したHiFiビデオデッキまたはTAPE2/VCR2端子に接続したテープデッキかHiFiビデオデッキへのダビングができます。

バイシアー VCR 1

VCR 1 端子に接続したHiFiビデオデッキからTAPE 1 端子に接続したテープデッキ、またはTAPE2/VCR2端子に接続したテープデッキかHiFiビデオデッキへのダビングができます。

テープ バイシアー TAPE 2 / VCR 2

TAPE2/VCR2端子に接続したテープデッキまたはHiFiビデオデッキからTAPE1 端子に接続したテープデッキかVCR 1 端子に接続したHiFiビデオデッキへのダビングができます。

ソース INPUT SELECTOR

INPUT SELECTORで選んだプログラムソースの録音または録画ができます。

③ ^{サラウンド} SURROUND ^{モード} MODEセクター

お聞きになるプログラムソースに合わせて残響効果を選べます。

^{シミュレーテッド} SIMULATED ^{サラウンド} SUR

モノラルソースに自然な残響効果音を付加します。

^{オフ} OFF

残響効果のない通常のステレオの音が再生されます。プレゼンスピーカーからは音が出ません。

^{ドルビー} ^{サラウンド} SURROUND

" DOLBY SURROUND™" と表示されたプログラムソースを再生する時はこの位置にします。

^{ナチュラル} NATURAL ^{サラウンド} SUR

通常のステレオソースをヤマハ独自のサラウンド回路によって自然な残響効果で再現します。

- モノラルソースをお聞きのとき、 SURROUNDまたはNATURAL SURにするとプレゼンス(サブ)スピーカーからの音は聞こえません。

④ ^{インプット} INPUT ^{セクター} SELECTOR

お聞きになる(ご覧になる)プログラムソースを選択するときに使用します。

^{フォノ} PHONO : レコードプレーヤー

^{シーディ} CD : CDプレーヤー

^{チューナー} TUNER : チューナー

^{ビデオ} VDP : ビデオディスクプレーヤー

^{オーディオ} AUX : その他のオーディオ機器

^{テープ} TAPE 1 : テープデッキ1

^{ビデオ} VCR 1 : HiFiビデオデッキ1

^{テープ} TAPE2/^{ビデオ} VCR2 : テープデッキ2かHiFiビデオデッキ2

VDP、VCR 1、TAPE2/VCR2のいずれかを選んだ状態で、さらにPHONO、CD、TUNER、AUX、TAPE 1のいずれかを選ぶと、前者の映像と後者の音声を同時に楽しみたいだけです。

PHONO、CD、TUNER、AUXまたはTAPE 1を選択すると表示文字は赤色になります。VDP、VCR 1、TAPE2/VCR 2の映像だけを選ぶと表示文字は緑色に、また映像と音声両方とも選択すると赤色になります。

⑤ ^{ボリューム} VOLUMEつまみ

リアパネルのSPEAKERS FRONT端子とREAR端子から出力される音量を同時に調整するつまみです。右に回すと音が大きくなり、左に回すと音が小さくなります。REAR端子とFRONT端子の音量バランスはREAR LEVELつまみによって調整します。

⑥ ^{リモート} REMOTE ^{コントロール} CONTROL受光窓

付属のワイヤレスリモコンからの信号を受光する窓です。

⑦ ^{バランス} BALANCEつまみ

左右のスピーカーの音量バランスを調整します。つまみを右に回すと左の音が小さくなり、左に回すと右の音が小さくなります。

⑧ ^{トーン} TONEつまみ

音質を調整するつまみです。低音域を調整するときは^{ベース} BASSつまみを、高音域を調整するときは^{トーン} TREBLEつまみを使用します。^{プラス} +側に回すとそれぞれの音域が強調され、^{マイナス} -側に回すと弱まります。

⑨ ^{スーパー} SUPER ^{ベース} BASSスイッチ

低音域(75Hz付近)を強調するときに^{オン} ONにします。

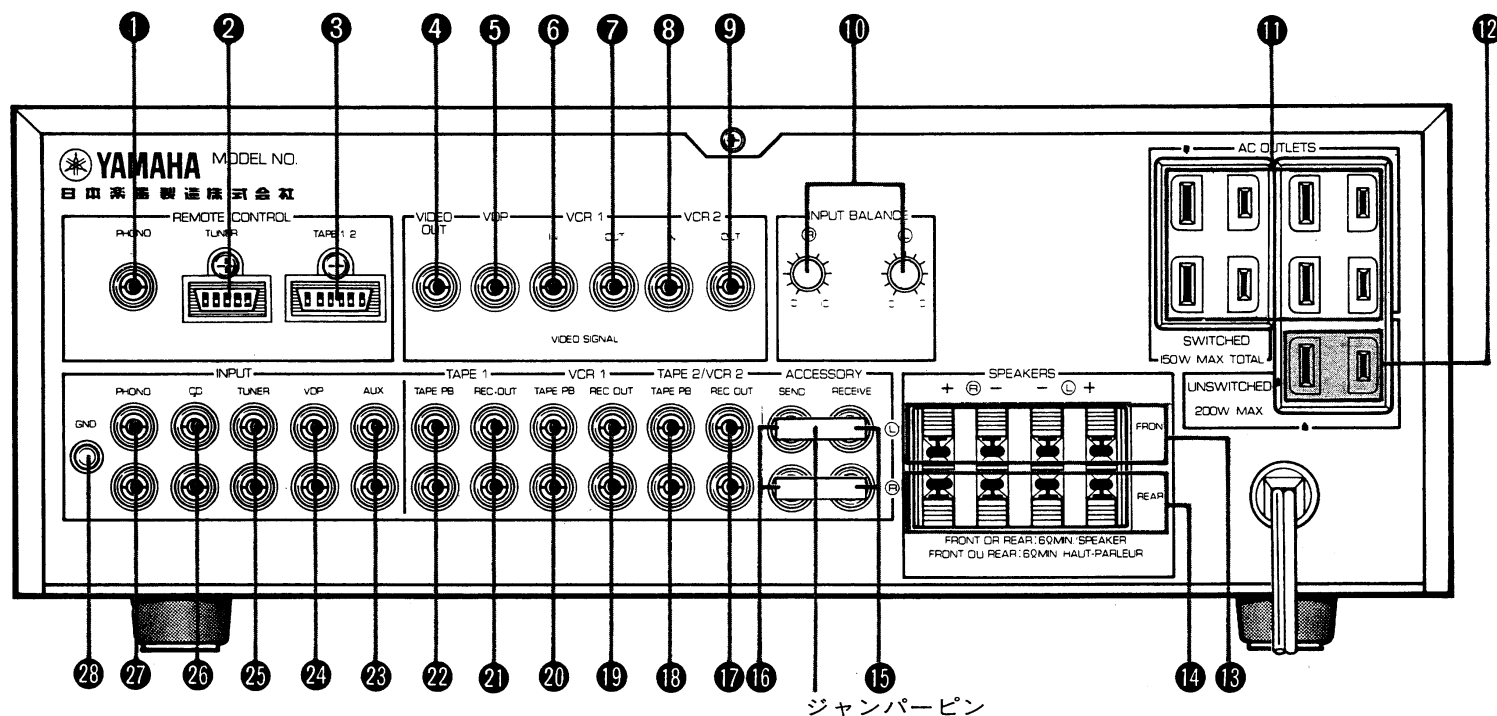
⑩ ^{リア} REAR ^{レベル} LEVELつまみ

本機リアパネルのSPEAKERS REAR端子から出力される音声信号のレベルを調整するときに使用します。"10"の方に回すと音量は大きくなり、"0"の方に回すと小さくなります。

⑪ ^{フォーンズ} PHONES端子

ヘッドホンでお聞きになる場合はヘッドホンのプラグをこの端子に差し込みます。プラグが差し込まれているとフロントスピーカーから音は出ません。

リアパネル



リモコンセクション

①PHONOリモートコントロール端子

リモコンユニットによって送信された信号をシステムリモコン対応のレコードプレーヤーへ送り出すための端子です。

②TUNERリモートコントロール端子

リモコンユニットによって送信された信号をシステムリモコン対応のチューナーへ送り出すための端子です。

③TAPEリモートコントロール端子

リモコンユニットによって送信された信号をシステムリモコン対応のカセットデッキへ送り出すための端子です。

ビデオセクション(映像)

④MONI OUT

INPUT SELECTORによって選択されたビデオ信号を出力する端子です。モニターテレビを接続します。

⑤VDPピクチャー端子

ビデオディスクプレーヤーから出力されるビデオ信号を入力する端子です。

⑥VCR1 "PB"ピクチャー端子

HiFiビデオデッキから出力されるビデオ信号を入力する端子です。1台目のHiFiビデオデッキを接続します。

⑦VCR1 "REC"ピクチャー端子

本機のフロントパネルにあるREC OUT SELECTORで選択されたビデオ信号を出力する端子です。

1台目のHiFiビデオデッキを接続します。

^{バイシアーアル プレイバック}
⑧ VCR2 “PB” ピクチャー端子

HiFiビデオデッキから出力されるビデオ信号を入力する端子です。2台目のHiFiビデオデッキを接続します。

^{バイシアーアル レック}
⑨ VCR2 “REC”ピクチャー端子

REC OUT SELECTORで選択されたビデオ信号を出力する端子です。
2台目のビデオデッキを接続します。

^{インプット バランス}
⑩ INPUT BALANCEツマミ(サラウンド専用)

残響成分(差信号)を最大限にとり出すために、入力側に設けた、左右のレベルバランス調整ツマミです。フロントスピーカーをOFFにし、プレゼンス(サブ)スピーカーから出てくる音で、中央定位成分が最少になるように調整します。通常はMAXにしておきます。

^{バイシアーアル バイシアーアル}
※VCRは、VTRと同じ意味です。

VCR: VIDEO CASSETTE RECORDER

VTR: VIDEO TAPE RECORDER

アウトプットセクションその他

^{アウトレット}
⑪ AC OUTLET(POWERスイッチ連動)

外部のAV機器に電源を供給する予備コンセントです。本機のPOWERスイッチと連動して、最大150Wまで供給できます。

^{アウトレット}
⑫ AC OUTLET(POWERスイッチ非連動)

外部のAV機器に電源を供給する予備コンセントです。本機のPOWERスイッチには関係なく、最大200Wまで供給できます。

オーディオセクション

^{スピーカーズ フロント}
⑬ SPEAKERS “FRONT”端子

フロントスピーカーを接続する端子です。

^{スピーカーズ リア}
⑭ SPEAKERS “REAR”端子

プレゼンス(サブ)スピーカーを接続する端子です。

^{アクセサリ レシーブ}
⑮ ACCESSORY “RECEIVE”端子

イコライザーなどから出力されるオーディオ信号を入力する端子です。使用しない場合はジャンパーピンでSEND端子と接続しておきます。

^{アクセサリ センド}
⑯ ACCESSORY “SEND”端子

INPUT SELECTORによって選択されたオーディオ信号を出力する端子です。
イコライザーなどを接続します。

^{テープ バイシアーアル レック}
⑰ TAPE 2/VCR2 “REC”サウンド端子

REC OUT SELECTORによって選択されたオーディオ信号を出力する端子です。
2台目のテープデッキまたはHiFiビデオデッキを接続します。

^{テープ バイシアーアル プレイバック}
⑱ TAPE 2/VCR2 “PB”サウンド端子

テープデッキまたはHiFiビデオデッキから出力されるオーディオ信号を入力する端子です。2台目のテープデッキまたはHiFiビデオデッキを接続します。

^{バイシアーアル レック}
⑲ VCR1 “REC”サウンド端子

REC OUT SELECTORで選択されたオーディオ信号を出力する端子です。1台目のHiFiビデオデッキを接続します。

^{バイシアーアル プレイバック}
⑳ VCR1 “PB”サウンド端子

HiFiビデオデッキから出力されるオーディオ信号を入力する端子です。1台目のHiFiビデオデッキを接続します。

^{テープ レック}
㉑ TAPE 1 “REC”サウンド端子

REC OUT SELECTORによって選択されたオーディオ信号を出力する端子です。
1台目のテープデッキを接続します。

^{テープ プレイバック}
㉒ TAPE 1 “PB”サウンド端子

テープデッキから出力されるオーディオ信号を入力する端子です。1台目のテープデッキを接続します。

エーユーエックス
23 AUX サウンド端子

外部のオーディオ機器(レコードプレーヤー以外)から出力されるオーディオ信号を入力する端子です。

バイディービー
24 VDP サウンド端子

ビデオディスクプレーヤーから出力されるオーディオ信号を入力する端子です。

チューナー
25 TUNER サウンド端子

チューナーから出力されるオーディオ信号を入力する端子です。

シーディー
26 CD サウンド端子

CDプレーヤーから出力されたオーディオ信号を入力する端子です。

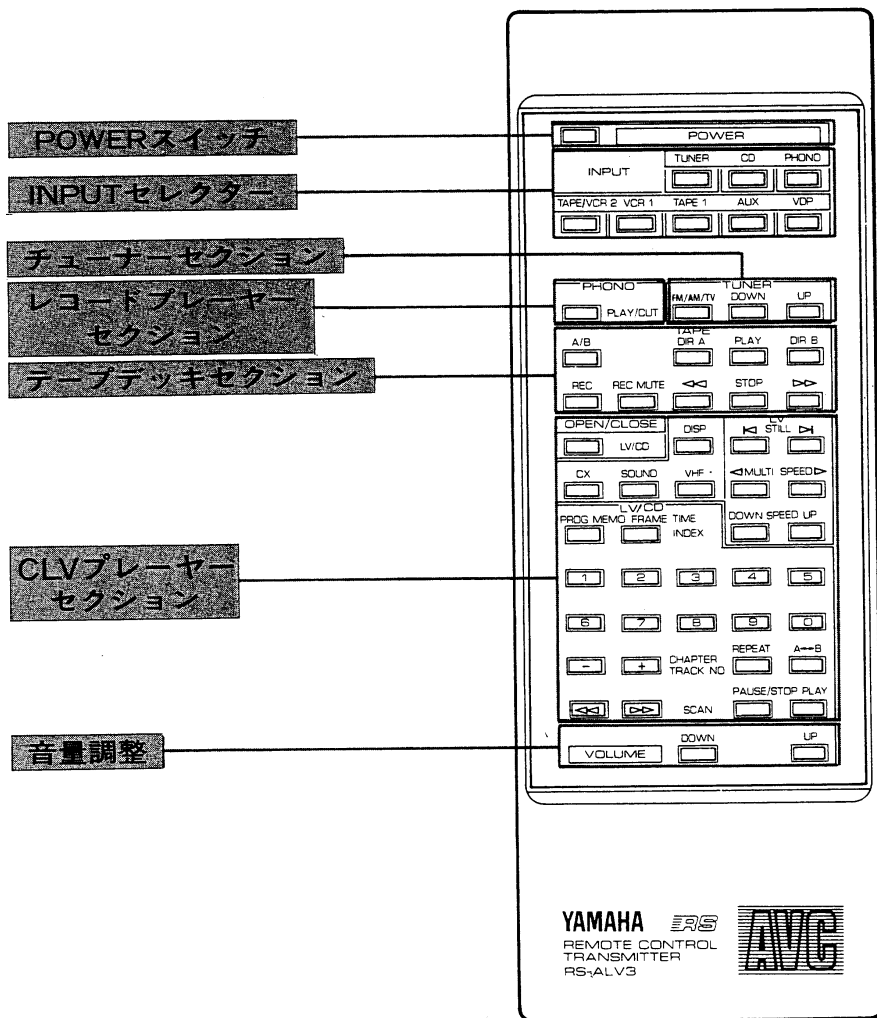
フォノ
27 PHONO サウンド端子

レコードプレーヤーから出力されたオーディオ信号を入力する端子です。
カートリッジは、MM型のものをお使いください。

グランド
28 GND 端子

レコードプレーヤーのアース線を接続する端子です。

リモコンユニット



RS-ALV3

POWERスイッチ

オン/オフ：AV-M88の電源のON/OFFを行なうキーです。

INPUTセレクトター

希望するプログラムソースを選択するキーです。

- PHONO^{フォノ} : レコードプレーヤー
- CD^{シーディー} : CDプレーヤー
- TUNER^{チューナー} : チューナー
- VDP^{ビデオディーピー} : ビデオディスクプレーヤー
- AUX^{エーユーエックス} : 他のオーディオ機器
- TAPE1^{テープ} : テープデッキ1
- VCR1^{ビデオシーアール} : HiFiビデオデッキ1
- TAPE2/VCR2^{テープビデオシーアール} : テープデッキ2またはHiFiビデオデッキ2

チューナーセクション

AV-M88に接続したシステムリモコン対応のチューナーまたはTVチューナーにプリセットされている放送局を選局するキーです。

アップ : チューナーにプリセットされている放送局を選局するときに押します。押すたびにプリセットの番号が1つずつ増えます。(例、P7→P8) また、P8(P16)のときに押すとP1(P9)に換わります。

ダウン : チューナーにプリセットされている放送局を選局するときに押します。押すたびにプリセットの番号が1つずつ減ります。(例、P8→P7) また、P1(P9)のときに押すとP8(P16)に換わります。

FM/AM/TV : このキーを押すたびに、FM、AM、TVチューナーに切り換わります。

レコードプレーヤーセクション

AV-M88に接続したシステムリモコン対応のレコードプレーヤーの演奏の開始と停止を行なうキーです。

PLAY/CUT : レコードプレーヤーのPLAY/CUTボタント同じはたらきをします。
押すと演奏を開始し、再度押すと停止します。

テープデッキセクション

AV-M88に接続したシステムリモコン対応のテープデッキを操作するときに使うキーです。

^{エービー}**A/B**：ダブルデッキのA、Bどちらのデッキを操作するのかわを選択するキーです。

^{ディレクション}**DIR A**：ダブルデッキのデッキAの走行方向を切り換えるキーです。

^{プレイ}**PLAY**：デッキの再生を始めるキーです。ダブルデッキの場合、最後に再生していたデッキ側の再生が始まります。

^{ディレクション}**DIR B**：ダブルデッキのデッキBの走行方向を切り換えるキーです。

^{レック}**REC**：録音するときに押します。

^{レック} ^{ミュート}**REC MUTE**：録音中に無録音部分を作る場合に押します。

▷▷：テープを早送りするときに押します。

^{ストップ}**STOP**：テープ走行を停止するときに押します。

◀◀：テープを巻き戻すときに押します。

CLVプレーヤーセクション

システムリモコン対応のCLVプレーヤーをダイレクトに操作できます。

LV,CD共用キー

^{オープン} ^{クローズ}**OPEN/CLOSE**：ディスクトレイを開閉するキーです。

^{ディスプレイ}**DISP**

LVのとき：このキーを押すと、チャプターナンバーとフレームナンバー、またはタイムナンバーが表示されます。

CDのとき：このキーを押すごとに、タイムディスプレイの表示が切り換わります。

^{プログラム} ^{メモリー}**PROG MEMO**：プログラム再生またはメモリー再生のときに使うキーです。

^{フレーム} ^{タイム} ^{インデックス}**FRAME TIME, INDEX**

LVのとき：このキーを押すと、ディスプレイはフレームナンバーまたはタイムナンバー表示となります。

CDのとき：このキーを押すと、ディスプレイはインデックスナンバー、トラックタイムまたはトータルタイム表示となります。

0-9：ダイレクトにチャプターの頭出しをしたり、選曲するときに使います。

^{ポーズ} ^{ストップ}**PAUSE/STOP**：再生中または演奏中に一時停止させるときや、停止させるときに使うキーです。1回押しで一時停止、2回押しで停止となります。

^{プレイ}**PLAY**：再生または演奏をスタートするキーです。

CHAPTER, TRACK No.

+：次のチャプターまたは次の曲の頭に移るキーです。

-：チャプターまたは曲の頭に戻るキーです。チャプターまたは曲の頭でこのキーを押すと一チャプター前または一曲前の頭に戻ります。

SCAN

▷▷：早送りを行なうキーです。押している間、早送りが行なわれます。

◀◀：早戻しを行なうキーです。押している間、早戻しが行なわれます。

^{リピート}**REPEAT**：シングルリピート、フルリピートまたはプログラムリピートを行なうキーです。

A↔B：任意の2点間のリピートを行なうキーです。

LV専用キー

^{シーエックス}**CX**：押すごとに、CX ON、OFFに切り換わります。

^{サウンド}**SOUND**：押すごとに、STEREO→1/L-CH→2/R-CHの順に切り換わります。

VHF：このキーを押して、VHF OUT インジケータのANTを点灯させると、映像・音声入力端子のないテレビの場合は、テレビ放送に切り換わります。

^{スタイル}**◀STILL▶**：どちらか一方のキーを押すと、映像は静止します。順方向、逆方向へのコマ送りにも使います。

^{マルチ} ^{スピード}**◀MULTI SPEED▶**：スピードキーで設定したスピードで、再生をスタートさせるキーです。

^{スピード} ^{アップ} ^{ダウン}**SPEED UP, DOWN**：再生のスピードを変えるキーです。

●詳しくはCLDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

音量調整

AV-M88のスピーカーの音量調節を行なうときに操作するキーです。

^{ボリューム}**VOLUME**

^{アップ}**UP**：音量を上げるキーです。

^{ダウン}**DOWN**：音量を下げるキーです。

接続のしかた

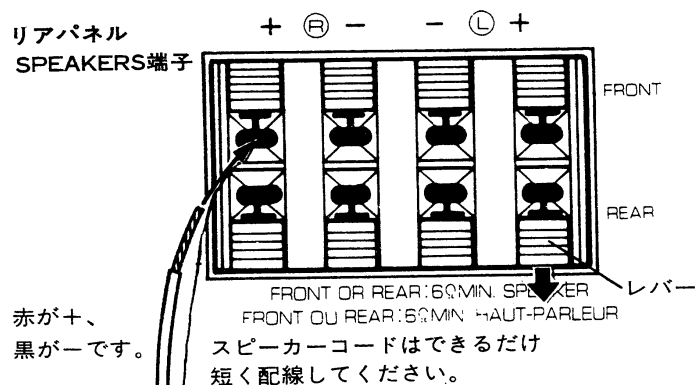
※接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して正しくしてください。

◆オーディオ機器との接続

■スピーカーシステムの接続

本機のSPEAKERS FRONT端子にフロントスピーカーを、REAR端子にプレゼンス(サブ)スピーカーをそれぞれ接続します。

レバーを指で押し、コードを入れて離します。



※極性が合っていない場合、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となってしまいますのでご注意ください。

※接続するスピーカーは指定のインピーダンスの範囲内(6～16Ω)のものをご使用ください。

※接続の際スピーカーコードの露出部分が他の端子に接触しないようにご注意ください。

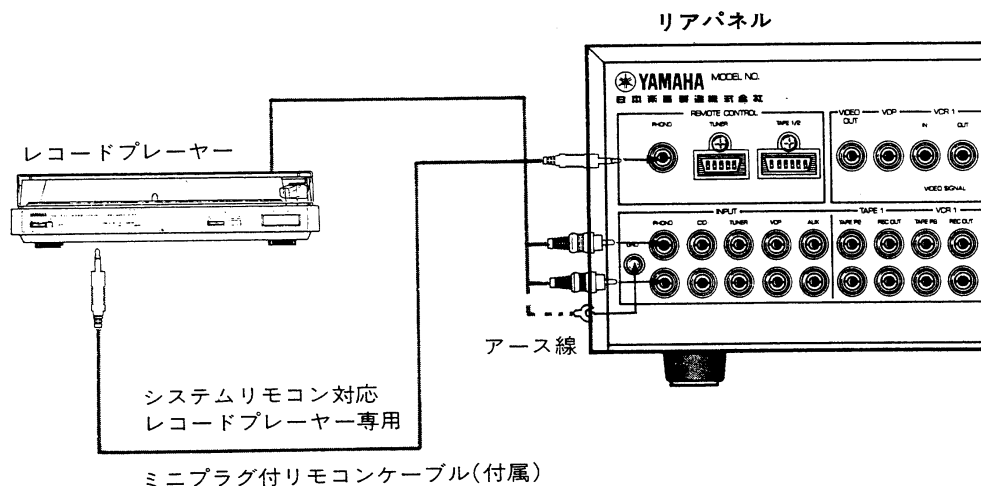
※スピーカーを1組のみ使用する場合は、FRONT端子に接続します。ただしこの場合サラウンド再生はできません。

■レコードプレーヤーの接続

①MMカートリッジ付のレコードプレーヤーの出力コードをPHONOサウンド端子に接続し、アース線のあるプレーヤーの場合はアース線をGND端子に接続してください。

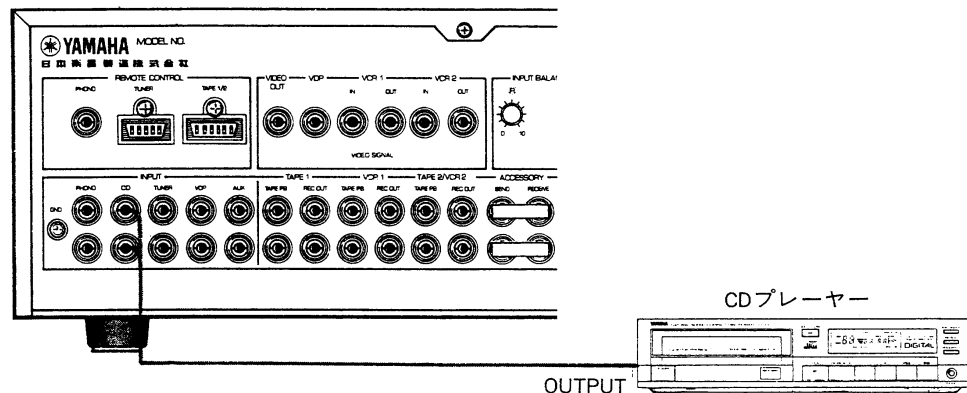
※MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを使う場合、本機とプレーヤーの間にMCヘッドアンプを接続してください。詳しくはMCヘッドアンプの取扱説明書をご覧ください。

②システムリモコン対応のレコードプレーヤーと接続する場合、付属のミニプラグ付リモコンケーブルでAV-M88のPHONOリモートコントロール端子と接続します。



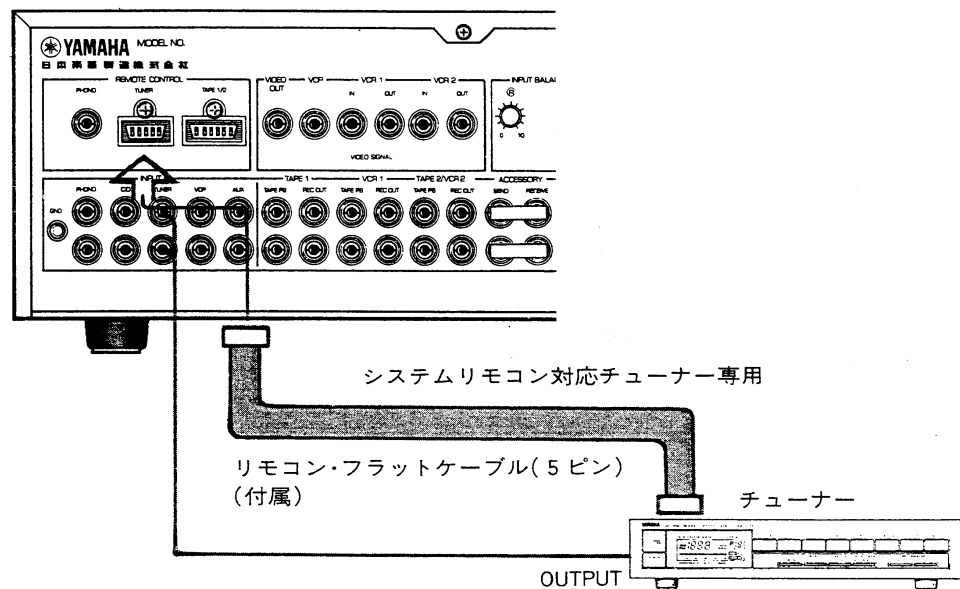
■CDの接続

コンパクトディスク (CD) プレーヤーの出力端子と本機のCDサウンド端子を接続してください。



■チューナーの接続

チューナーの出力端子と本機のTUNERサウンド端子を接続してください。チューナーをご使用になる場合、付属のフラットケーブル(5ピン)を使用して本機のTUNERリモートコントロール端子と接続します。

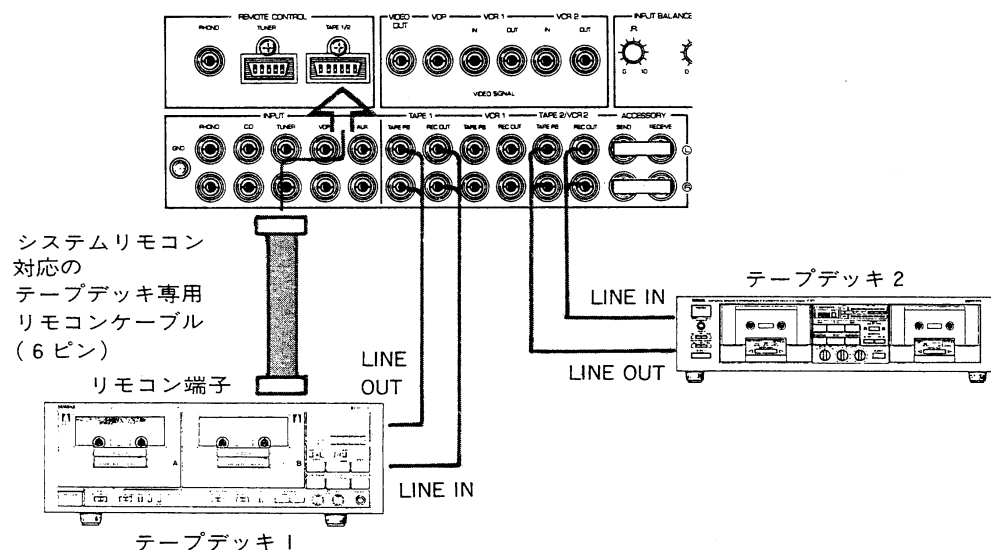


■AUXサウンド端子への接続

AUXサウンド端子は補助入力端子です。2台目のCDプレーヤーやチューナーなどが接続できます。

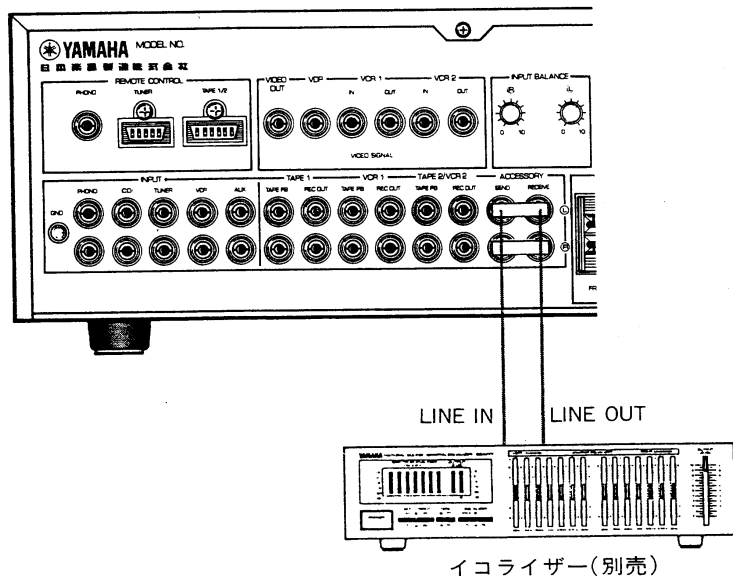
■テープデッキの接続

本機では、TAPE1、TAPE2/VCR2端子にテープデッキの接続ができます。PBサウンド端子とテープデッキのLINE OUT端子、RECサウンド端子とテープデッキのLINE IN端子をそれぞれ接続してください。システムリモコン対応テープデッキをご使用になる場合、付属のフラットケーブル(6ピン)によってお互いのリモートコントロール端子を接続します。

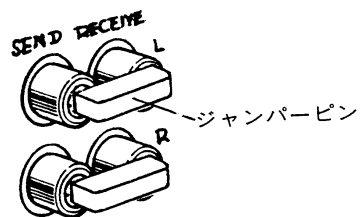


■ACCESSORY端子への接続

イコライザーなどのオーディオ機器を接続できます。本機のSEND端子とオーディオ機器のLINE INPUT端子、RECEIVE端子とオーディオ機器のLINE OUTPUT端子をそれぞれ接続してください。



※ACCESSORY端子を使用しないときは、図のようにSEND端子とRECEIVE端子をジャンパーピンで接続します。



◆ビデオ機器との接続

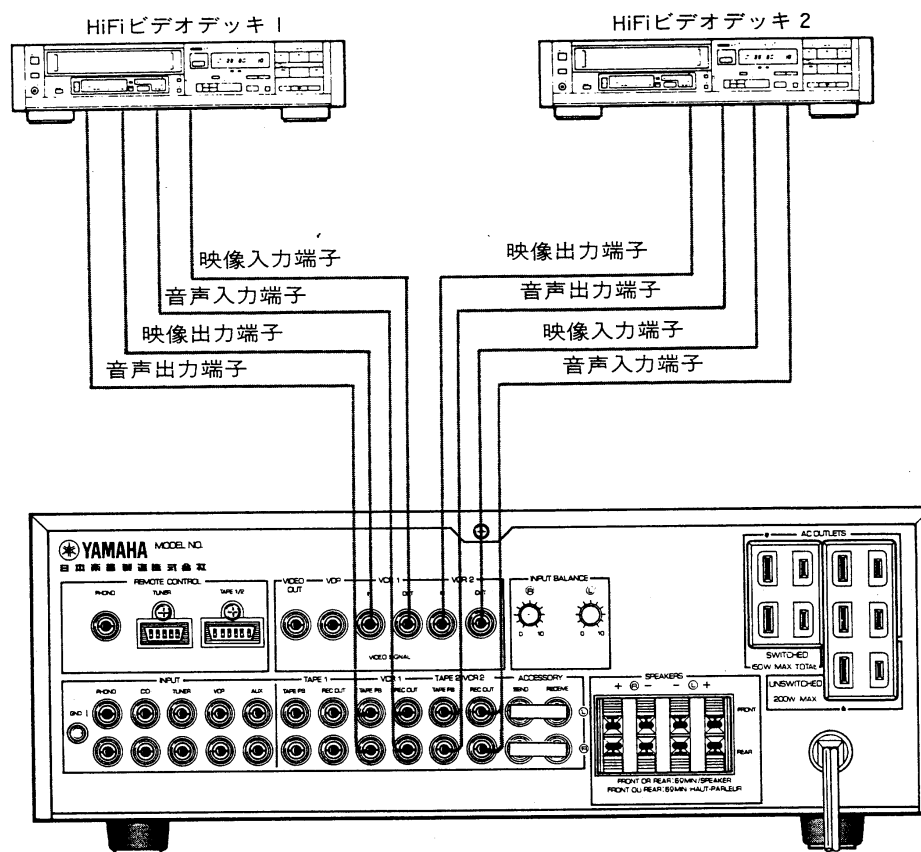
■HiFiビデオデッキの接続

本機ではVCR1、TAPE2/VCR2端子にHiFiビデオデッキの接続ができます。

〈映像系〉VCR1 PB ピクチャー端子(黄)とHiFiビデオデッキの映像出力端子、VCR1 REC ピクチャー端子(黄)とHiFiビデオデッキの映像入力端子を接続します。

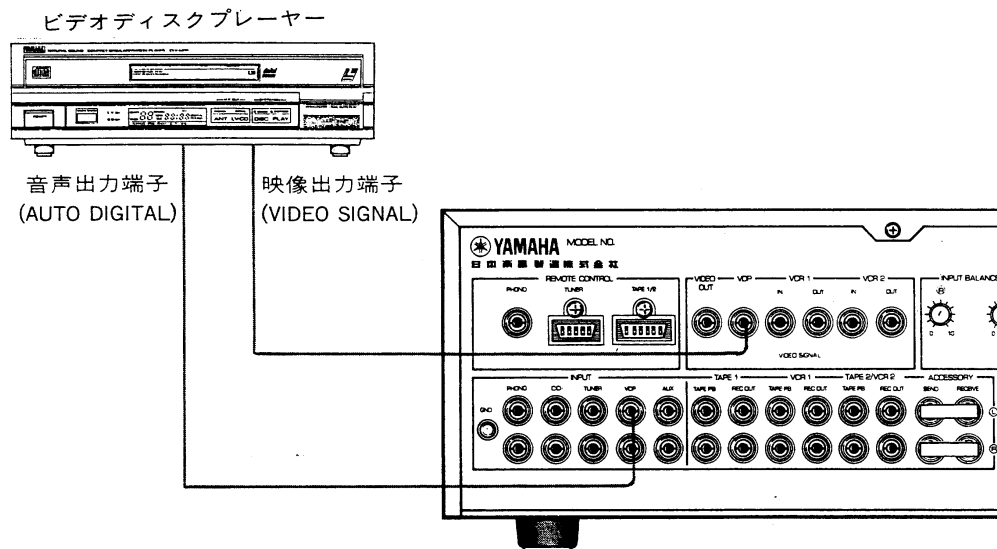
〈音声系〉VCR1 PB サウンド端子とHiFiビデオデッキの音声出力端子、VCR1 REC サウンド端子とHiFiビデオデッキの音声入力端子を接続します。

※TAPE2/VCR2端子も同様にして接続します。



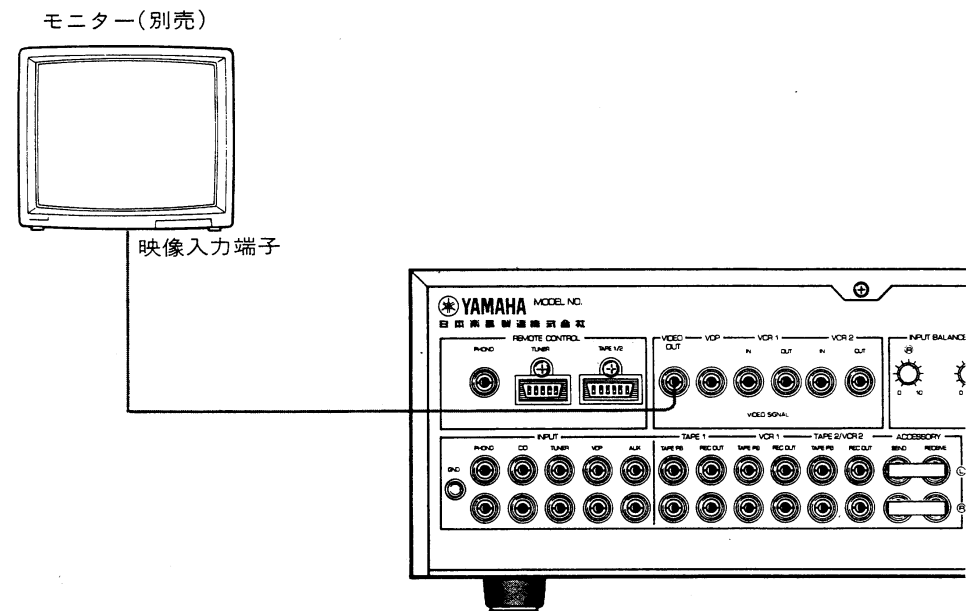
■ビデオディスクプレーヤーの接続

VDPピクチャー端子(黄)とビデオディスクプレーヤーの映像出力端子を接続し、VDPサウンド端子(白、赤)とビデオディスクプレーヤーの音声出力端子を接続します。

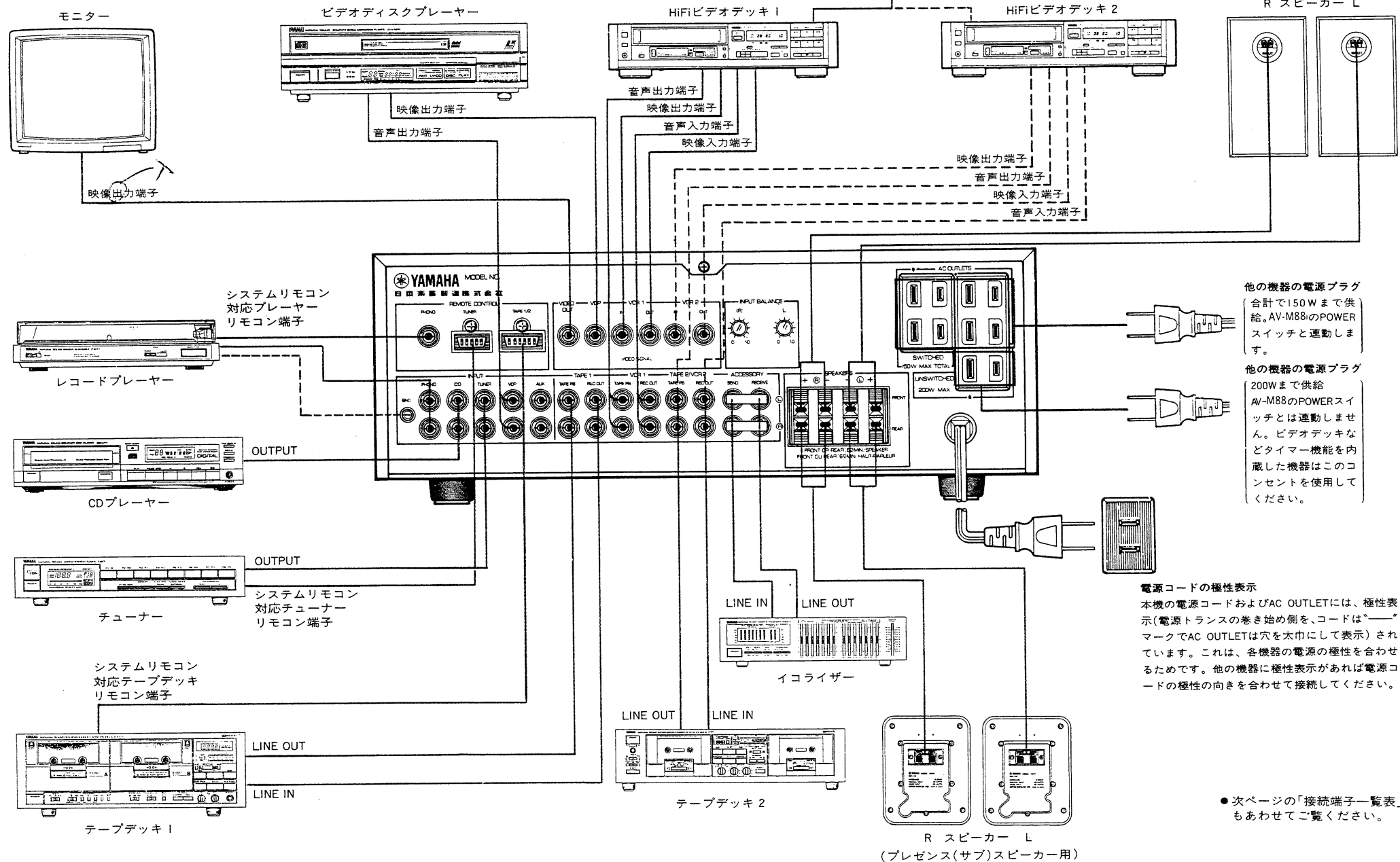


■モニターテレビの接続

MONI OUT端子(黄)とモニターテレビの映像入力端子を接続します。



■システム接続図



接続端子一覧表

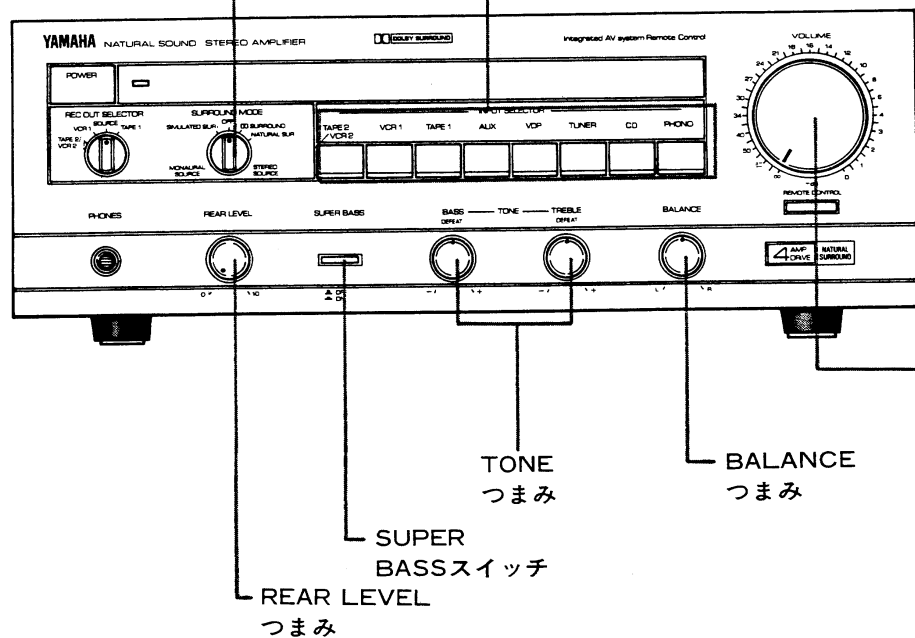
接続する機器とその端子名		AV-M99の端子名		
オーディオ機器	フロントスピーカー(L)	(+、-)	← スピーカーコード	SPEAKERS FRONT ① (+、-)
	フロントスピーカー(R)	(+、-)	← スピーカーコード	SPEAKERS FRONT ② (+、-)
	サブスピーカー(L)	(+、-)	← スピーカーコード	SPEAKERS REAR ① (+、-)
	サブスピーカー(R)	(+、-)	← スピーカーコード	SPEAKERS REAR ② (+、-)
	レコードプレーヤー	出力コード、アース線 REMOTE*1	← ミニプラグ付リモコンケーブル(付属品)	SOUND PHONO、GND REMOTE CONTROL PHONO
	CDプレーヤー	OUTPUT(L、R)	==→	SOUND CD(L、R)
	FM/AMチューナー	OUTPUT(L、R) REMOTE*1	==→ ← リモコンケーブル 5 ピン(付属品)	SOUND TUNER(L、R) REMOTE CONTROL TUNER
	テープデッキ1	LINE OUT(L、R) LINE IN (L、R) REMOTE*1	==→ ← ← リモコンケーブル 6 ピン(付属品)	SOUND TAPE 1、PB(L、R) SOUND TAPE 1、REC(L、R) REMOTE CONTROL TAPE
	テープデッキ2	LINE OUT(L、R) LINE IN	==→ ←	SOUND TAPE 2、PB(L、R) SOUND TAPE 2、REC(L、R)
	イコライザー	LINE IN (L、R) LINE OUT(L、R)	← ==→	SOUND ACCESSORY SEND(L、R) SOUND ACCESSORY RECEIVE(L、R)
ビデオ機器	ビデオディスクプレーヤー	映像出力端子 音声出力端子(L、R)	→ ==→	PICTURE VDP SOUND VDP(L、R)
	HiFiビデオデッキ1	映像出力端子 音声出力端子(L、R) 映像入力端子 音声入力端子(L、R)	→ ==→ ← ←	PICTURE VCR 1、PB SOUND VCR 1、PB(L、R) PICTURE VCR 1、REC SOUND VCR 1、REC(L、R)
	HiFiビデオデッキ2	映像出力端子 音声出力端子(L、R) 映像入力端子 音声入力端子(L、R)	→ ==→ ← ←	PICTURE VCR 2、PB SOUND VCR 2、PB PICTURE VCR 2、REC SOUND VCR 2、REC(L、R)
	モニターテレビ	映像入力端子	←	MONI OUT

* 1 システムリモコン対応のヤマハ製品のみ接続できます。

再生のしかた

■オーディオソースの再生（番号の順序で操作してください。）

- 準備
- VOLUMEつまみを“∞”の位置にします。
 - 本機および再生するオーディオ機器の電源を入れます。



- 左右のスピーカーの音量バランスを調整したい時はBALANCEつまみを使います。
- フロントスピーカーとプレゼンス(サブ)スピーカーの音量バランスを調整したい時はREAR LEVELつまみを使います。
- 音質を調整したい時はTONEつまみを使います。
- 低音域をより強調したい時はSUPER BASSスイッチを **ON** にします。

1 INPUT SELECTORで再生したいオーディオソースを選びます。

- 選んだプログラムソースのボタン上の表示文字が赤色になります。

2 SURROUND MODEセレクターを再生するプログラムソースに合わせて切り換えます。
ステレオソースの場合 : ☐ SURROUND か ☐ NATURAL SUR
モノラルソースの場合 : SIMULATED SUR
サラウンドにしない場合 : OFF

3 オーディオ機器の再生を始めます。

- オーディオ機器の操作方法是それぞれの取扱説明書を参照してください。

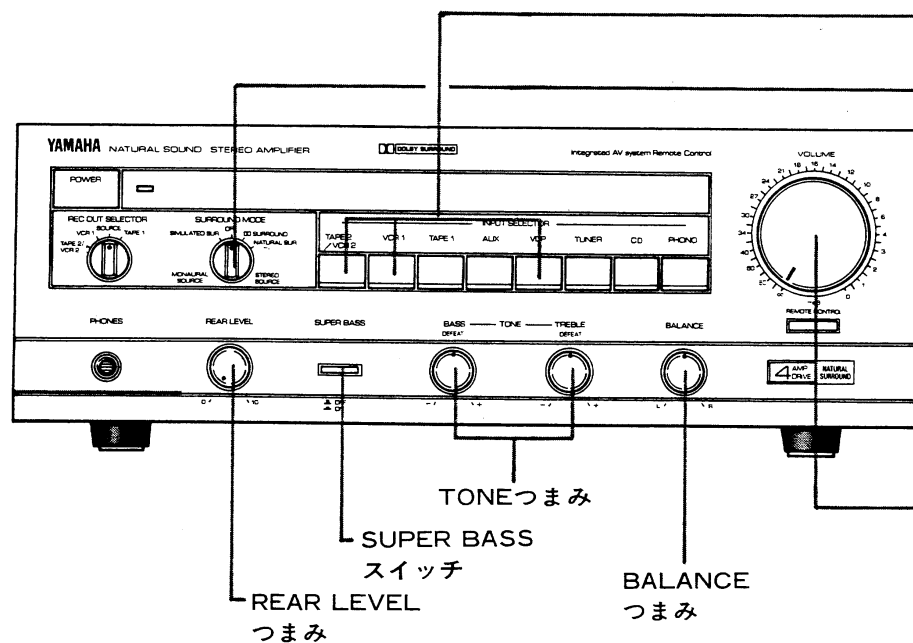
4 VOLUMEつまみで音量を調整します。右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

ヘッドホンでお聞きになりたいとき

PHONES端子にヘッドホンのプラグを差し込みます。この場合フロントスピーカーからの音は聞こえなくなります。プレゼンス(サブ)スピーカーからの音を消す場合はSURROUND MODEセレクターを“OFF”にします。

■ビデオソースの再生（番号の順序で操作してください。）

- 準備
- VOLUMEつまみを“∞”の位置にします。
 - 本機、ビデオ機器およびモニターテレビの電源を入れます。



1 INPUT SELECTORで再生したいビデオソースを選びます。

- 選んだプログラムソースのボタン上の表示文字が赤色になります。

2 SURROUND MODEセクターを再生するプログラムソースに合わせて切り換えます。

3 ビデオ機器の再生を始めます。

- ビデオ機器の操作方法はそれぞれの取扱説明書を参照してください。

4 VOLUMEつまみで音量を調整します。

- 左右のスピーカーの音量バランスを調整したい時はBALANCEつまみを使います。
- フロントスピーカーとプレゼンス(サブ)スピーカーの音量バランスを調整したい時はREAR LEVELつまみを使います。
- 音質を調整したい時はTONEつまみを使います。
- 低音域をより強調したい時はSUPER BASSスイッチを **ON** にします。

メモ

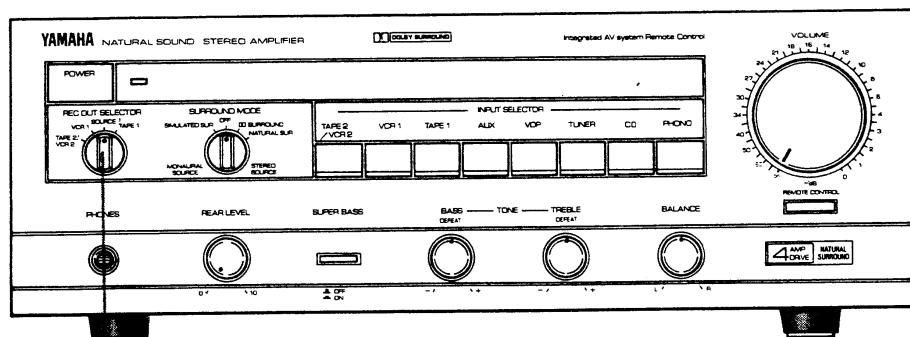
ビデオソースの画像と他のオーディオソースの音声を同時にお楽しみいただくにはINPUT SELECTORでビデオソースを選んだ後、希望のオーディオソースをさらに選びます。この場合ビデオソースのボタン上の表示文字は緑色にオーディオソースの方は赤色になります。

録音のしかた

■テープデッキの録音（番号の順序で操作してください）

本機に接続されたAV機器の録音を行ないます。ビデオデッキをオーディオデッキとして録音に使用する場合も同様の操作を行なってください。

準備 ●本機、テープデッキおよび録音したい機器の電源を入れます。



REC OUT SELECTOR で録音したいプログラムソースを選びます。

SOURCE : INPUT SELECTORで選んだプログラムソース

1

TAPE1 : テープデッキ 1

VCR1 : HiFiビデオデッキ 1 の音声

TAPE2/VCR2 : テープデッキ 2 かHiFiビデオデッキ 2 の音声

2

テープデッキを操作して録音レベルを調整した後、録音一時停止状態にします。

3

録音したいプログラムソースの再生と同時にテープデッキの録音を始めます。

- テープデッキ 2 台とHiFiビデオデッキ 1 台またはテープデッキ 1 台とビデオデッキ 2 台の合計 3 台まで同時に録音できます。
- テープデッキの操作はテープデッキの取扱説明書を参照して行なってください。

■テープデッキのダビング

テープデッキを 2 台使用すると、テープからテープへダビングすることができます。

テープデッキ 1 → テープデッキ 2

テープデッキ1からテープデッキ2へダビングするときは、REC OUT SELECTORで"TAPE 1"を選び、テープデッキ 1 を再生状態にし、テープデッキ 2 で録音します。

テープデッキ 2 → テープデッキ 1

テープデッキ2からテープデッキ1へダビングするときは、REC OUT SELECTORで"TAPE2/VCR2"を選び、テープデッキ2を再生状態にし、テープデッキ1で録音します。

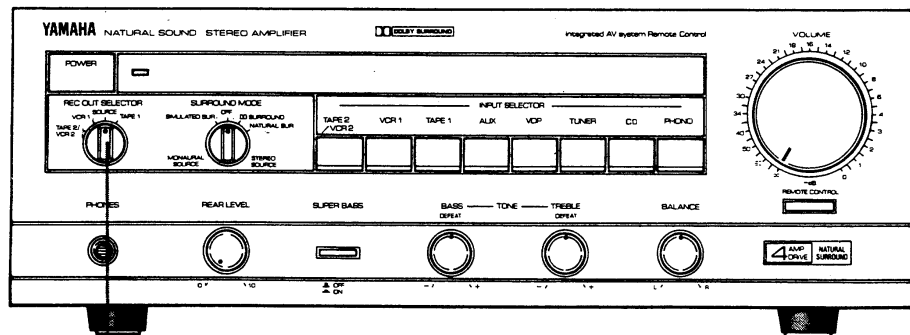
テープデッキの録音中あるいはダビング中は、REC OUT SELECTOR以外のつまみを操作しても録音には影響しません。

録画のしかた

■HiFiビデオデッキの録画（番号の順序で操作してください。）

本機に接続されたビデオ機器の録画を行ないます。

準備 ●本機、HiFiビデオデッキおよび録画したい機器の電源を入れます。



1 REC OUT SELECTOR で録画したいプログラムソースを選びます。

- ビデオソースの画像と他のオーディオソースの音声をHiFiビデオデッキに録ることも可能です。
その場合REC OUT SELECTORはSOURCEの位置にして、INPUT SELECTORで希望のビデオソースとオーディオソースを選びます。

2 HiFiビデオデッキを操作して録画一時停止状態にします。

3 録画したいビデオソースの再生と同時にHiFiビデオデッキの録画を始めます。

- 2台のHiFiビデオデッキで同時に録画することも可能です。
- 録画内容をモニターする（録画している画面を見る）時は、INPUT SELECTORで“VCR1”または“TAPE2/VCR2”（録画しているHiFiビデオデッキに合わせて）を選択します。
- HiFiビデオデッキの操作は、HiFiビデオデッキの取扱説明書を参照して行なってください。
- 録画する時は、あらかじめテスト録画を行なってください。

■HiFiビデオデッキのダビング

HiFiビデオデッキを2台使用すると、テープからテープへダビングすることができます。

HiFiビデオデッキ1→HiFiビデオデッキ2

HiFiビデオデッキ1からHiFiビデオデッキ2へダビングするときは、REC OUT SELECTORで“VCR1”を選び、HiFiビデオデッキ1を再生状態にし、HiFiビデオデッキ2で録画します。

HiFiビデオデッキ2→HiFiビデオデッキ1

HiFiビデオデッキ2からHiFiビデオデッキ1へダビングするときは、REC OUT SELECTORで“TAPE2/VCR2”を選び、HiFiビデオデッキ2を再生状態にし、HiFiビデオデッキ1で録画します。

HiFiビデオデッキの録画、ダビング中は、REC OUT SELECTOR以外のつまみを操作しても録画には影響しません。

メモ

REC OUT SELECTORがSOURCE以外の位置にある場合は録画、録音中に、別のプログラムソースをINPUT SELECTORで選んでお楽しみいただけます。

サラウンドプロセッサについて

	ソース	ポジション	信号処理経路	プレゼンス(サブ)スピーカー出力
モノラルソース	映画音楽 スポーツ番組	SIMULATED SURROUND		モノラルソースをくし形フィルターで、REAR L, Rへ振り分けます。テレビ、VCR等のモノラルソースでサラウンドをお楽しみいただけます。
	全てのソース	OFF		プレゼンススピーカーからは音が出ません。
ステレオソース	DOLBY SURROUND TM マークのある映画ソフト	DOLBY SURROUND		ドルビーサラウンドデコーダー残響成分(差信号)を遅延させて、REAR L, Rに出力します。
	映画音楽 スポーツ番組	NATURAL SURROUND		残響成分をくし形フィルターで、REAR L, Rに振り分けます。広帯域で自然なひろがり感が得られます。

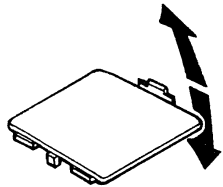
FL, FR…フロント左、右出力
PL, PR…プレゼンス(サブ)左、右出力

※ DOLBY SURROUND、NATURAL SURROUND のポジションでモノラルソースを再生すると、プレゼンス(サブ)スピーカーからの音は消えます。

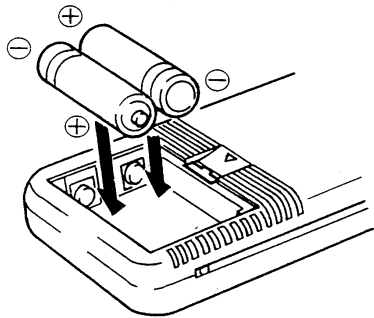
リモコンを使う前に

■電池の入れかた

①ふたをはずします。



②電池SUM-3型(単3) 2個を、 $\oplus$ $\ominus$ の向きを合わせて正しく入れます。



リモコンユニット裏側

③電池交換がすんだらふたをカチッと音がするまでしめます。

■電池の交換時期は？

リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。そのときは、2個とも新しい電池に交換してください。

乾電池についてのご注意

乾電池も使いかたを誤ると、液もれや破裂などの危険があります。次の点については、特にご注意ください。

電池交換のときは

- プラス($\oplus$)とマイナス($\ominus$)の向きを、電池ケース内の表示通りに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

充電について

- 電池には充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。

リモコンをお使いになる上で

- 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 消耗してきた電池は、早めに交換してください。

万一の事故を防ぐために

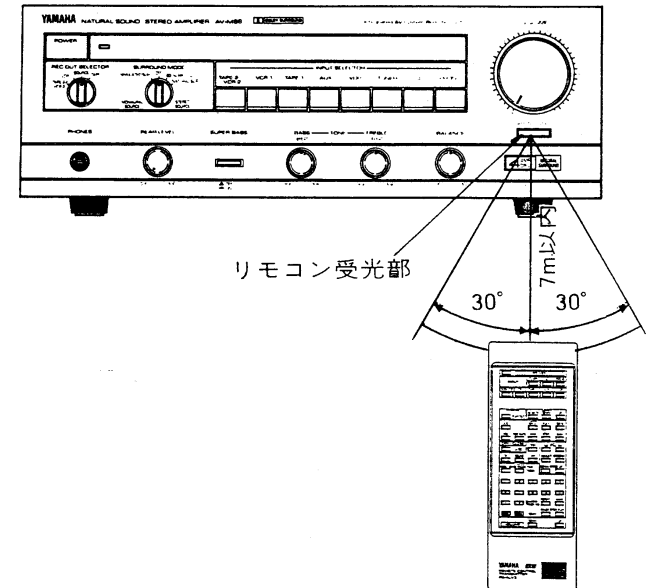
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れたりしないでください。また、捨てるときは、熱えないゴミとして捨ててください。
- $\oplus$ と $\ominus$ を金属片などで直接つなぐこと(ショート)はしないでください。

液もれがおこったときは

電池ケースについた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

リモコンについてのご注意

リモコンの使用範囲は



リモコンが動作しなくなったら…

電池が消耗していることがあります。新しい電池に取り換えてみてください。また、AV-M99の電源コードが電源コンセントに接続されているかも確かめください。

付属のリモコンは…

本機およびシステムリモコン対応のヤマハ製品が操作できます。それ以外の機器に使用すると、動作しなかったり、誤動作をおこすことがあります。

ていねいに扱ってください。

お茶や水をこぼしたり、強くたたいたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高い所にも置かないようにご注意ください。

リモコン受光部に、直射日光や照明器具の強い光が当たらないようにご注意ください。

強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、働きにくくなります。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください		こうすればOKです
電源が入らない	電源プラグがコンセントからはずれている。		しっかり差し込んでください。
INPUT SELECTORを押しても再生音が出ない	ピンプラグが確実に差し込まれていない。		ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
プレゼンス(サブ)スピーカーから音が出ない	REAR LEVELつまみが"0"の位置になっている。		REAR LEVELつまみを"10"の方向へ回します。
	入力ソースがモノラルで、SURROUND MODE セレクターが ☐ ☐ SURROUND または NATURAL SURROUND のポジションになっている。		モノラルソースの場合、プレゼンス(サブ)スピーカーからは音は出ません。
左右いずれかのスピーカーから音が出ない	BALANCEつまみがLかRのどちらかにずれている。		BALANCEつまみを調整しなおしてください。
	片方のスピーカーコードがはずれている。		スピーカーコードを正しく接続しなおしてください。
低音のない不自然な再生音で、音像が定位しない	本機とスピーカーの極性(+、-)が合っていない。		本機のSPEAKERS端子と、スピーカーの極性(+、-)を正しく接続しなおしてください。
レコードプレーヤーの再生音が小さい	MCカートリッジ付レコードプレーヤーを接続している。		MCカートリッジをお使いになるには、MCヘッドアンプを使用するか、MCポジション付のプリメインアンプをお使いください。
オーディオシステムにノイズが出る	モニターがすぐ近くにセットされている。		モニターとオーディオシステムを離してセットしてください。
テレビの画面にしま模様が出る	テレビのアンテナ線とオーディオ関係のコード類がからみ合っている。		アンテナ線と他のコード類がからみ合わないよう接続しなおしてください。
リモコンで操作できない	リモコンの電池が消耗している。		電池を交換してください。
	リモコン操作の距離、角度が適切でない。		7m以内、30° 以内で操作してください。
リモコンを操作するとテレビが誤動作する	ワイヤレスリモコン機能をもつテレビを使用している場合。	テレビが本機のそばにセットされている。	テレビと本機を離してセットするかテレビのリモコン受光部におおいをしてください。

参考仕様

■オーディオセクション

定格出力(EIAJ)

フロント

20Hz～20kHz, 6Ω 80W+80W

リア

6Ω 6W+6W

ダンピングファクター

1kHz 8Ω 50以上

入力感度／入力インピーダンス

音声入出力

PHONO MM 2.5mV／47kΩ

CD/TUNER/VDP/AUX/TAPE/VCR/ACCESSORY 150mV／47kΩ

最大許容入力

1kHz, 0.01% THD, PHONO MM 130mV

出力電圧／出力インピーダンス

REC OUT 150mV／470Ω

周波数特性(20Hz～20kHz)

CD/TUNER/VDP/AUX/TAPE/VCR ±0.5dB

RIAA偏差

20Hz～20kHz, PHONO MM ±0.5dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)

PHONO MM (3V) 0.008%

CD/TUNER/VDP/AUX/TAPE/VCR→SPEAKER (25W／6Ω) 0.05%

SN比(IHF Aネットワーク, 入力ショート)

PHONO MM (2.5mV) 74dB

CD/TUNER/VDP/AUX/TAPE/VCR 100dB

残留ノイズ(IHF Aネットワーク)

SPEAKER OUT 110μV

チャンネルセパレーション(1kHz, Vol -30dB

PHONO MM (ショート) 60dB

CD/TUNER/VDP/AUX/TAPE/VCR (5.1kΩ) 60dB

トーンコントロール

Bass (ターンオーバー周波数350Hz) ±12dB (50Hz)

Treble (ターンオーバー周波数3.5kHz) ±12dB (20kHz)

Super Bass 75Hz, +7dB

■総合仕様

定格電源電圧, 周波数 AC100V, 50／60Hz

定格消費電力 120W

ACアウトレット

SWITCHED×4 150Wmax.

UNSWITCHED×1 200Wmax.

外形寸法(W×H×D) 340×282×110mm

総重量 7kg

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点 (電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(025)243-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 日本楽器宮竹工場内北側 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 オーディオ北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F オーディオ仙台営業所 TEL(022)223-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F オーディオ首都圏営業所 TEL(03)255-5691 オーディオ神田営業所 TEL(03)255-6767 オーディオ北関東営業所 TEL(03)255-1825 オーディオ横浜営業所 TEL(044)434-4871 オーディオ東京営業所 TEL(03)255-2302
名古屋	〒464 名古屋市中区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 オーディオ中部営業所 TEL(052)782-7551 オーディオ名古屋営業所 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 オーディオ関西営業所 TEL(06)647-6411 オーディオ大阪営業所 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内 オーディオ中四国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 オーディオ九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 オーディオ事業部 国内営業部 TEL(0534)60-3421

日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

オーディオ事業部国内営業部 TEL.(0534)60-3421
管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。

